

漢字には筆順がある。それに従って書けば書きやすく、また、書かれた字の形も整う。だから、筆順に従って書くことが能率的だということになる。

しかし、筆順は、字によっては三とおりも四とおりもあるのであって、ただ一つだけが正しく、ほかは誤りだというようなものではない。

ところが、昭和33年3月31日に、文部省から『筆順指導の手びき』が公布されると、それには教育漢字の各字について一種類の筆順しか書かれていないため、それと異なる筆順はすべて誤りだと思い込んでいる教師が多い。

たとえば、右は、ノ一ノとなつてゐるため一ノと書けば誤りとする教師がいる。これは、先ほどの字体の問題と同じく、行き過ぎであり、しかも法令違反なのである。

という訳は、文部省の『筆順指導の手びき』の初めにある「本書のねらい」には、

ももろん、本書に示される筆順は、学習指導上に混乱をきたさないようにとの配慮から定められたものであって、そのことは、ここに取りあげなかつた筆順についても、これを誤りとするものでもなく、また否定しようとするものでもない。

と明記されているからである。どうも現場の先生がたは、せっかちで、たいせつな「まえがき」を読まないで指導にあたるものだから、字体の場合でも筆順の場合でも、誤りを犯し、学生・生徒諸君を不当に苦しめているのである。これは一日も早く是正されたいことではあるが、今の諸君は、めんどろでも、字体の場合と同様、筆順の場合も、ただ一つの『手びき』の筆順による書き方を身につけることが賢明である。